

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	0270201445		
法人名	津軽保健生活協同組合		
事業所名	津軽保健生活協同組合健生介護センター虹		
所在地 (電話番号)	〒036-8066 青森県弘前市向外瀬豊田292-1 (電話) 0172-35-7611		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成22年2月4日	評価確定日	平成22年3月31日

【情報提供票より】(平成22年 1月 7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 12人, 非常勤 5人, 常勤換算	13.38人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円 (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(1月 7日現在)

利用者人数	18 名	男性 4 名	女性 14 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	10 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢 平均	81.95 歳	最低	67 歳
		最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	健生病院、健生クリニック、藤代健生病院、成田歯科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの近くには大型スーパーや住宅街があり、入居後も馴染みの環境の中で暮らすことができる。時代のニーズ、入居者、家族の要望に応え、看護師の配置や協力医、訪問看護等と連携して看取りを行っている。介護サービス計画の評価に当たっては、必ず入居者の満足度を確認されており、常に入居者の視点に立って一人ひとりを支援されていることが窺える。また、ホームで新たなケアの試みなどを行う際には近隣のホームへも声をかけるなど、地域全体のサービスの質の向上をも視野に入れた取り組みをされている。地域の住民にとっても心強く、頼りがいのあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「全職員での自己評価への取り組み」「プライバシーに関する方針の具体化」等、前回の外部評価で検討課題とされた項目を前向きに受け止め、さらなるサービスの引き上げに活かしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で自己評価に取り組み、サービスの引き上げを行っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議の開催に当たっては家族の参加できる日を年単位で確認する等、最も身近にいる外部評価者である家族が無理なく参加できるように工夫されている。会議では外部評価の結果をはじめホームの運営に関することや入居者の様子等、幅広く報告されている。管理者、職員は提起された意見や要望を前向きに受け止め、サービスに活かしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>苦情箱の設置、家族交流会、面会時等、多種多様な取り組みを通じて、意見の吸い上げを行っている。家族から寄せられた意見、要望については、運営会議やスタッフ会議で前向きに検討され、運営に反映されている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入され、毎年、地域の清掃活動に参加されたり、近隣の保育園や交番などへの挨拶回りをされている。また、地域住民にホーム行事や祭りへの参加を呼びかけたり、小学校からの招待を受けてねぶた行事に出かけるなどされ、地域との交流を図っている。地域貢献に関しては研修会に講師を派遣したり、小グループの会合などを通じて、これまで積み重ねてきた認知症に関する知識等を地域に還元されている。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着サービスとして果たすべき役割を反映させた、ホーム独自の理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、掲示されている理念の振り返りや「虹大会」等を通じて理念を共有し、入居された後も地域との関わりを維持できるように支援されている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入され、毎年、地域の清掃活動に参加されたり、近隣の保育園や交番などへの挨拶回りをされている。また、地域住民にホーム行事や祭りへの参加を呼びかけたり、小学校からの招待を受けてねぶた行事に出かけたりするなどされ、地域との交流を図っている。地域貢献に関しては研修会に講師を派遣したり、小グループの会合などを通じて、これまで積み重ねてきた認知症に関する知識等を地域に還元されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>運営者、管理者は評価の意義を理解され、昨年度課題とされた「全職員による自己評価での取り組み」「プライバシーに関する方針の具体化」等、評価結果をさらなるサービスの引き上げに活かしている。</p>		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の開催に当たっては家族の参加できる日を年単位で確認する等、最も身近にいる外部評価者である家族が無理なく参加できるよう工夫されている。会議では外部評価の結果をはじめホームの運営に関することや入居者の様子等、幅広く報告されている。また、そこでの意見や要望を前向きに受け止め、サービスに活かしている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の担当者とは気軽に相談できる関係が築かれており、運営推進会議以外でも意見交換しながら、協働してサービスの質の向上に取り組まれている。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度に関する資料の整備や研修を年間計画に組み込むなどして、定期的に確認し合っている。また、以前に制度を利用されていた入居者に対する支援実績もあり、必要な人には全ての職員がそれらを活用できる体制となっている。</p>		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ざされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の虐待・身体拘束委員会への参加や、研修会等を通じて確認しあい、虐待が見逃されないよう取り組まれている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居前に丁寧に説明され、不安や疑問に答えている。家族等がもっとも不安を感じる退居については、病院退院後に活用できる併設事業所や他の福祉サービスの情報を伝えるなどして、理解と納得を図っている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>健康状態については変化がある都度、金銭については個々の家族の希望に合わせ定期的に、暮らしぶりについては面会時やホーム新聞の通信欄を活用するなどして報告されている。また、職員の異動に関しては、担当職員が家族に手紙で報告しているほか、ホーム新聞にも掲載するなどして、報告漏れが無いよう配慮している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱の設置、家族交流会、面会時等、多種多様な取り組みを通じて、意見の吸い上げを行っている。家族から寄せられた意見、要望については、運営会議やスタッフ会議で前向きに検討され、運営に反映されている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>運営者は、職員の異動による入居者への影響を十分に理解され、職員のスキルアップのための人事異動以外は行っていない。やむを得ず異動となる場合は、異動する職員が入居者の家族へ直接便りを出すなど、細やかな配慮がされている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者等の上司が職員の目標を毎年確認され、その目標の達成のために必要となる研修等に参加できるよう積極的な支援をされている。また、研修に参加した職員は、伝達研修を行い、全職員に周知している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の主催する研修のほか、近隣ホームとの私的なつながりや交流を通じて情報交換している。新たなケアの研修を企画した際には、近隣のホームへも参加を呼びかけるなど、地域全体のサービスの質の向上をも視野に入れた取り組みをされている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設事業所のサービスを利用されている方については、入居前から管理者等が意識的に声かけを多くするなどの工夫をされている。また、面識の無い方については入居前の自宅訪問、入居直後は本人の状態に応じて家族に面会を多くしてもらったり、本人に外泊を勧める等の工夫をされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者を人生の先輩として接している。重度化された入居者に対しては、話し相手や見守りなどの新たな役割や楽しみを一緒に考え、見出して、共に支えあいながら暮らしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時には本人、家族等から思いや意向を把握されている。入居後は本人との会話や日頃の職員の観察、面会時の家族からの情報をもとに、入居後に微妙に変化する思いや意向についても継続的に把握されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、職員から生活に対する意向を確認され、本人本位の介護計画が作成されている。また、真に本人本位のサービスが提供されているか、満足度はどうかについても定期的に確認され、記録し、次回の介護計画に反映させている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は定期的に見直しされている。また、本人の状態に変化が生じた場合はその都度関係者と話し合いをもち、新たな計画を作成している。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>医療連携体制加算を活かし、24時間、看護師と連携して健康管理を行っている。また、ドライブ、買い物等の外出支援の要望にも、柔軟に対応されている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する病院に通院されている。また、通院に際しての情報提供のほか、体力的に遠方への通院が困難となった方については希望に応じ、近くの協力医師等に変更できるように支援されている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取り指針を定め、それに基づいて説明されている。また、かかりつけ医師、訪問看護等、看取りに関わるホーム内外の関係者と連携し、「住み慣れたホームや馴染みの仲間、職員に囲まれて最期を迎えたい」という入居者の思いを受け止め、看取りを行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	既存のプライバシーに対する対応方針を踏まえ、何が入居者のプライバシー侵害にあたる行為なのかを文書で職員に明示している。管理者はその内容を踏まえ、うっかりミスがないようにと、折に触れ職員の注意を促している。個人記録等の取り扱いに関しては毎年、内部研修を行っており、現場での取り扱いも適切である。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は生活の各場面で、その都度本人の意向を確認しながら支援されている。また、直ちに意向に添えない時は、本人と話し合って少し時間をずらすなど工夫され、その人らしい暮らしが継続できるよう支援されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の希望や能力、体調を考慮しながら、昼食の下準備などを職員と一緒にしている。また、食事の献立については一人ひとりの好みや嗜好調査等を踏まえ、作成されている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	重要事項説明書に、「入浴は週2回」と明記しているが、夏場は入浴日を週3回としている。また、冬場でも入居者の状態等により、入浴日以外でも入浴できるよう支援されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は一人ひとりの生活歴や楽しみごとを把握しており、生活の場面場面で力を発揮できるよう支援されている。また、活動能力に衰えがみられるようになった方に対しては、これまでの経験を活かせる場面がきたら意見を聞いたり、他入居者の話し相手になっていただくなど、残存能力を活かせるように支援されている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じ、天気の良い日は散歩などの外出支援が行われている。また、冬場でも天気の良い時は散歩できるよう、散歩コースにロードヒーティングが設置されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	どのような行為が指定基準における禁止の対象となるのかを文書に明記している。また、身体拘束をしないというホームの方針は全職員に浸透しており、身体拘束は一切行われていない。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、職員は日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。入居者が外出を希望される時には一緒に出かけるなど工夫され、鍵をかけないケアを実践されている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけられている	スプリンクラーと排煙窓が、義務化される以前から設置されている。2階の併設施設の宿直員が駆けつける等、夜勤職員を支援する体制も整備されている。また、ホームが置かれている地域で想定される水害対策についても検討しているほか、地域住民の協力が得られるよう働きかけもされている。		予定されている地震訓練の実施に当たっては、強震が発生した時に多発した、沸騰した鍋等による二次災害の防止策をも要綱に追加して行うことを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士の支援のもと、栄養バランス等が確保された食事が提供されている。また、一時的に食欲不振に陥った方や嚥下障害等により普通食を摂取できなくなった方に対しては、その時々状態に応じた柔軟な支援が行われている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	必要となる各種の感染症マニュアルが整備されているほか、見直しや更新もされている。また、玄関やホーム新聞に季節毎に注意を要する感染症に関する留意事項等を明示したり、洗面所に正しい手洗い手順を掲示する等、感染症から入居者を守るため実践的な取り組みをされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リビング内は明るく、家具や調度品も家庭的なものを使うなど入居者が落ち着いた環境の中で過ごせるよう心配りされている。また、職員の会話のトーンは穏やかであり、食事時の音楽の音量は会話を楽しみたい方にも配慮した音量に設定されている。</p>		
35	80	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者は思い出の写真や馴染みの家具などを持ち込み、思い思いに過ごされている。ホームでは「入所案内」にも明記するなどして、入居申し込み段階から思い出の品や使い慣れた物を持参していただくよう働きかけている。</p>		

 は、重点項目。